

知る  続く
在来作物
プロジェクト

講演会



「在来作物の民俗誌
—気仙沼の大島カブを事例として—」

小野寺佑紀 氏



2024年 2月 3日 (土)
13時30分~15時

せんだいメディアテーク 7階
スタジオ a 入場無料 要予約

宮城県気仙沼大島では伝統野菜「大島カブ」が古くから栽培されている。大島カブはルタバガ（学名：Brassica napobrassica）という根菜の在来種で、17世紀初頭にはチェコのボヘミア地方で栽培され、18世紀にはフランスをはじめ欧米各地に伝播した。日本国内には明治初年、食用・家畜飼料用として導入されたが、古くから北東北では在来種が栽培されていた。本報告では大島カブの栽培方法はじめ、救荒作物や郷土食としての来歴など、震災後の地域における保存と活用の取り組みを交えながら民俗学の視座から報告する。

おのでら ゆうき
小野寺佑紀 氏

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了。博士（歴史民俗資料学）。専門は民俗学。三陸沿岸はじめ各地の漁村における生業と民間信仰を研究。気仙沼・南三陸の郷土史・食文化に精通し、伝統野菜「大島カブ」の保存活動にも取り組む。日本民俗学会、東北民俗の会会員。神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員、気仙沼リアス調理製菓専門学校非常勤講師。



定員：先着15名（リアル参加）
主催：みやぎ在来作物研究会
共催：せんだいメディアテーク
助成：（一財）地域創造
web：<http://www.smt.jp/projects/zairai/>
申し込み：miyagizairai@gmail.com

お申し込み方法

①名前②メールアドレス③電話番号
④リアル参加・オンライン参加どちらを希望するか⑤質問などを記入してメールにてご連絡ください。オンライン（zoom）でも開催します。（予約者に前日までにURLをお送りします）